

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

DXアンテナ

はじめに

仕様

各部名称

組立・操作・調整

外形寸法・付属品

高シールド

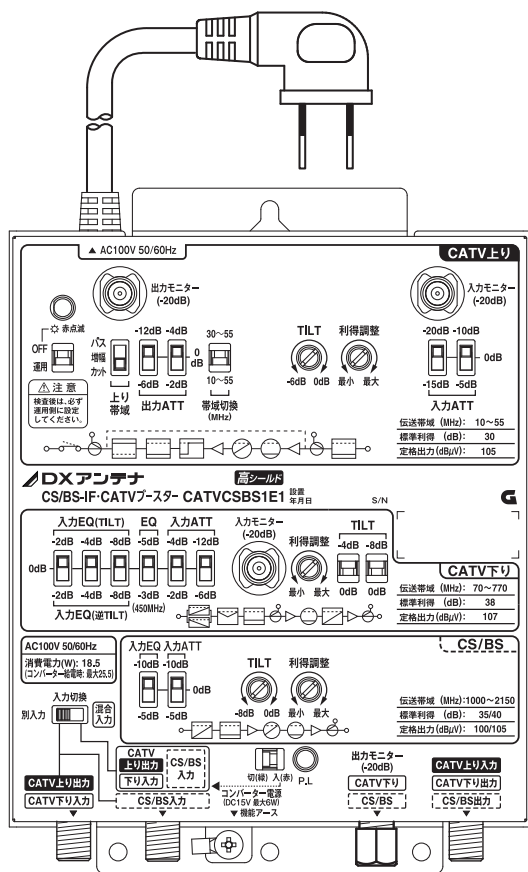
テレビ共同受信機器 CS/BS-IF・CATVブースター



一般財団法人 ベタリーピングが優良住宅部品認定制度によって、品質、性能、アフターサービスなどに優れた住宅部品を厳重な審査に基づき認定した住宅部品です。さらに保証責任保険と賠償責任保険が制度化されていますので、安心してご利用できます。

上り10~55MHz、下り70~770MHz、CS/BS-IF1000~2150MHz増幅用 電源内蔵形 屋内用

CATVCSBS1E1 (BL型式 CATV・CS・BS-1E)



もくじ

取扱説明書	ページ
はじめに	
取扱い上のご注意	1
安全上のご注意	2
お取扱いの前に	2
メンテナンス	3
保証について	3
仕様	
性能規格	3
各部名称	
各部の名称	4
施工説明書	
組立・操作・調整	
設置上のご注意	5
使用部品	5
取付方法	5
スイッチの操作	5~6
調整方法	6~7
ブロックダイアグラム	8
外形寸法・付属品	
外形寸法図	8
付属品	8
お問い合わせ	8

取扱い上のご注意

- テレビ受信工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
- 屋外に設置する場合は、必ず防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容ボックスなどに収容してください。
- この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがあります。途中には電流通過形機器以外は絶対に挿入しないでください。また、電流通過形機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、電流非通過形機器を挿入しますと、回路や同軸ケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。
- 取り付けに用いる以外のネジを回したり、製品本体のカバーを開けて回路部品に手を触れたりしないでください。
- 電源の供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後に行ってください。
- スイッチを切り換える場合、切換操作を数回行い、スイッチ接点部の活性化(クリーニング)をしてください。長期間操作をしないと接点部分に酸化膜が発生し、接触不良の原因となります。
- 使用時、異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- 放熱性に富むアルミ合金製放熱板を採用していますので、放熱効果により筐体が熱を持ちますが異常ではありません。

取扱説明書

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		水ぬれ禁止		接触禁止		一般的な禁止事項		指示を守る
---	----------	---	---------	---	-------	---	------	---	----------	---	-------

警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。



禁止

製品内部に水などが入った場合や、落として破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店・工事店にご連絡ください。



抜取り指示

以下の場所に設置しない

落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
・強度の弱い場所
・不安定な場所
・ぐらついたり振動したりする場所
・傾いた場所



禁止

以下の環境に設置しない

変形や火災、感電など事故の原因となり、製品寿命が短くなることがあります。
・直射日光の当たる場所
・放熱機能のないボックス内
・屋外・風呂場・洗い場・水がかかる場所
・湿気やほこりの多い場所
・調理台や加湿器のそばなど高温になる場所
・油煙や湯気があたる場所



禁止



水ぬれ禁止

電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしない
また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づける)、引っ張ったりしない



禁止

火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだとき(心線の露出、断線など)はお買い上げの販売店・工事店にご相談ください。

通風孔をふさいだり、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだりしない



禁止

火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。



抜取り指示

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



接触禁止

雷が鳴り出したら、製品には触れない
感電の原因となります。



接触禁止

煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用しない

火災や感電の原因となります。すぐに、ブースター電源部の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店・工事店に修理をご相談ください。



抜取り指示

接地する

引っ張り強さ 0.39N 以上の金属線、または直径 1.6 mm の軟導線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



締付け指示

取り付けネジや接栓の締付け力(トルク)に指定がある場合は、その力(トルク)で締め付け、固定する
落ちたり、破損したりして、けがの原因となります。



接続指示

製品を分解・改造しない

感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。



分解禁止

電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む

ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。



禁止

注意

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

AMラジオから1.5m以上離して使用する

AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。



注意

お取扱いの前に

- ブースターを落としたり、ぶつけたりしないよう注意してください。
- 電源を供給する前に機能アースを必ず接地してください。なお、機能アースは安全アースではありません。
- 同軸ケーブルは、S-5C-FBまたはS-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- 同軸ケーブルに使用する接栓は、同軸ケーブルに適したC15形のピン付き接栓を使用してください。
- 同軸ケーブルの接栓取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を加工してご使用ください。
特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。
- 入出力端子へのF形接栓の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)。
- 正常な動作を確認するために、定期的な点検を実施してください。

メンテナンス

いつまでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、1年に1回は専門業者に保守点検を依頼してください。
※この製品を処分するときは、産業廃棄物として処理してください。

保証について

- ・この製品の保証期間は、お引き渡しの日から2年間です。保証期間内に取扱説明書、施工説明書記載事項に従った正常な使用状態で故障した場合など、アフターサービスについてご不明な場合は、お問い合わせの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにお問い合わせください。ただし、下記の場合は保証期間内でも有償修理となります。
- ①住宅、事務所、学校、病院、ホテルまたは旅館以外で使用した場合の不具合。 ②ユーザーが適切な使用、維持管理を行わなかったことに起因する不具合。 ③メーカーが定める施工説明書などを逸脱した施工に起因する不具合。 ④メーカーが認めた者以外の者による住宅部品の設置後の移動・分解などに起因する不具合。 ⑤建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせなどの経年変化または使用に伴う摩耗などにより生じる外観上の現象。 ⑥海岸付近、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合。 ⑦ねずみ、昆虫などの動物の行為に起因する不具合。 ⑧火災・爆発事故、落雷・地震・噴火・洪水・津波など天変地異または戦争・暴動等破壊行為による不具合。 ⑨消耗部品の消耗に起因する不具合。 ⑩電気の供給トラブルなどに起因する不具合。

性能規格

品名	CS/BS-IF-CATVブースター		
型番 (BL型式)	CATVCSBS1E1 (CATV-CS-BS-1E)		
周波数帯域 (MHz)	10~55(30~55)(注1)	70~770	1000~2150
最大伝送波数 (波)	2+DATA	74+デジタル(注2)	BS12・CS24
標準入力レベル (dBμV)	75	69	65
標準利得 (dB)	30以上(増幅時)/0~-9(パス時)	38以上	30/40以上
定格出力レベル (dBμV)	105(フラット出力)	107(フラット出力)	100/105(1000/2150MHz)
利得調整範囲 (dB)	0~-15以上(連続可変)(注3)	0~-10以上(連続可変)(注3)	0~-10以上(連続可変)(注3)
入力A T T (dB)	0、-5/-10、-15/-20(注4)	0、-2/-4、-6/-12(注4)	0、-5/-10
入力E Q (T I L T) (dB)	-	0、-2、-4、-8(70MHz)※(注4)	-
入力E Q (逆T I L T) (dB)	-	0、-2、-4、-8(770MHz)※(注4)	-
入力E Q (dB)	-	0、-3、-5(450MHz)	0、-5/-10(1000MHz)(注6)
T I L T (dB)	0~-6以上(10MHz値)	0、-4、-8(70MHz値)	0~-8以上(1000MHz値)
出力A T T (dB)	0、-2/-4、-6/-12(注4)	-	-
伝送帯域内周波数特性 (dB)	全帯域で±1.0以内	全帯域で±2.0以内	チルト直線に対し全帯域で±2.5以内 (任意の34.5MHzで±1.0以内)
雑音指数 (dB)	10以下(注5)	10以下(注5)	10以下(注5)
相互変調 (IM2) (dB)	-55以下(注3)	-63以下(注3)	-
相互変調 (IM3) (dB)	-	-	-66以下(注3)
C T B (dB)	-	-60以下(注3)	-
利得安定度 (dB)	±2.0以内		±3.0以内
ハム変調 (dB)	-60以下(注3)		-
電圧定在波比	2.0以下(注3)		2.5以下(注3)
入出力インピーダンス (Ω)	75(F形)		-
入力モニター (dB)	-20		-
出力モニター (dB)	-20		-
耐衝撃波性能 (耐雷性)	入出力端子・電源端子 ±15kV(1.2/50μs)		
コンバータ供給電源	DC15V 6W		
電源 (V)	AC100(50/60Hz)		
消費電力 (W)	18.5(38.0VA)、コンバータ用電源6W送出時25.5(51.0VA)		
使用温度範囲 (℃)	-10~+40		
漏洩電界強度 (dBμV/m)	-	34.0以下(注7)	40.2以下(注7)
外形寸法 (mm)	192(H)×146(W)×69(D)		
質量 (kg)	1.3		

(注1)スイッチ切替式 (注2)デジタル(550~770)は-10dB運用 (注3)利得標準時 (注4)加算式 (注5)利得最大時 (注6)2150MHz基準 (注7)3mの距離において
※70MHzと770MHzは、同時に設定することはできません。

仕様は改良により、予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

高シールド 高シールドマークは、携帯電話や各種無線サービスなどとの電波干渉を抑制するため、厳しい社内基準を基にシールド性を高めた製品であることを示します。

各部の名称

※下図スイッチ位置は出荷時の設定です。ボリューム位置は出荷時は最小側です。

CATV上り...加入者側からケーブルテレビ事業者に送られる出力信号のことです。

CATV下り...ケーブル事業者側から加入者に送られる入力信号のことです。

※各スイッチおよびボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。

強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。

※各スイッチは「カチッ」となるまで動かしてください。

CATV上り

帯域切換スイッチ

30MHz以下を使用しないことで
流合雑音を抑えることができます。

出力ATTスイッチ

0、-2/-4、-6/-12dB(加算式)
を選択できます。(⇒P5②参照)

出力モニター端子

出力レベルに対して20dB低い
レベルを出力します。

増幅/パス/カット切換スイッチ

増幅側にすると標準利得30dBの
ブースターになります。カット側に
すると上り信号は出力されません。

上り調整中点滅ランプ

出力切換スイッチ

上り信号調整時に調整中の信号
が局側に流れないようにするス
イッチです。調整後は必ず「運用」
側に戻してください。

CATV下り

入力EQスイッチ

入力波形が傾斜している場合に
TILT/逆TILTスイッチ(-2、-4、
-8dB)加算式で補正すること
ができます。(⇒P6⑤参照)

入力EQスイッチ

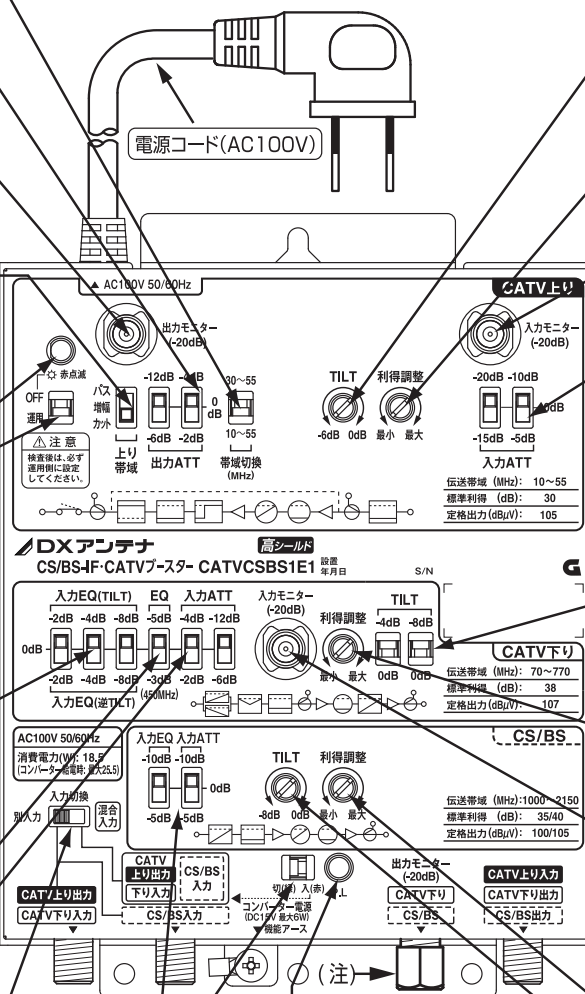
0、-3/-5dBを選択できます。
(⇒P6⑤参照)

入力ATTスイッチ

0、-2/-4、-6/-12dB(加算式)
を選択できます。(⇒P5②参照)

入力切換スイッチ

CS/BS信号とCATV上り・下り
信号を別入力もしくは、混合入力
に切り替えることができます。
(⇒P5①参照)



CATV上り

TILTボリューム

出力レベルの傾斜を連続で
0から-6dB調整できます。
(⇒P5③参照)

利得調整ボリューム

0から-15dB連続で調整で
きます。(⇒P5④参照)

入力モニター端子

入力信号に対して20dB低い
レベルを出力します。

入力ATTスイッチ

0、-5/-10、-15/-20dB
(加算式)を選択できます。
(⇒P5②参照)

CATV下り

TILTスイッチ

出力レベルの傾斜を0、-4、
-8dB(加算式)で減衰させるこ
とができます。(⇒P5④参照)

利得調整ボリューム

0から-10dB連続で調整で
きます。(⇒P5③参照)

入力モニター端子

入力信号に対して20dB低いレ
ベルを出力します。

モニターキャップ (注)

出力モニター端子を使用しない場
合は、付属のモニタキャップを
取り付けてください。
(⇒P5「設置上のご注意」参照)
締付トルク2N・m

CS/BS

コンバーター電源スイッチ

「入」にするとDC15Vが供給され、
コンバーター通電確認ランプが赤色
に点灯します。(⇒P6⑥参照)

入力EQスイッチ (⇒P6⑤参照)

0、-5/-10dBを選択できます。

入力ATTスイッチ (⇒P5②参照)

0、-5/-10dBを選択できます。

利得調整ボリューム

0から-10dB連続で調整
できます。
(⇒P5③参照)

TILTボリューム

1000MHzの利得が最大8dB
減衰します。(⇒P5③参照)

●入力切換スイッチ: 別入力の場合

CATV上り出力端子

CATV下り入力端子

●入力切換スイッチ: 混合入力の場合

この端子は使用しません。

●入力切換スイッチ: 別入力の場合※

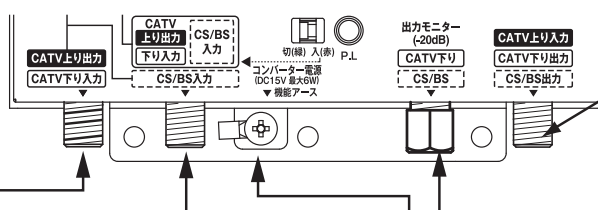
CS/BS入力端子

●入力切換スイッチ: 混合入力の場合※

CATV上り出力端子

CATV下り・CS/BS混合入力端子

※コンバーター用電源出力端子、DC15Vを重畳して給電できます。



CATV上り入力端子

CATV下り・CS/BS出力端子

CATV下り出力モニター端子

CS/BS出力モニター端子

出力端子-20dBが出力されます。

機能アース端子

直径1.6mm以上の
軟銅線で接地して
ください。

施工説明書

ご使用の前にこの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。また施工前に製品の外観に異常がないか、付属品が正しく入っているか確認してください。

- ・当社の定める施工説明を逸脱しない方法で据付工事を行い不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行なった場合、BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、一般財団法人 ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- ・BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、万一、当社又は設置工事施工者による瑕疵保障責任等が行えない場合、これに代わる措置が同財団から受けられます。
- ・BL保険制度については、同財団のホームページ(<http://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。
なお、BL保険制度に関する質問は、同財団(Tel 03-5211-0680)でもお受け致します。

設置上のご注意

- ・この製品は、屋内用です。ただし、屋外で使用する場合は、下記の「取付方法」をご覧ください。
- ・メンテナンスの容易なところに設置し、次のような場所に設置しないでください。
 - ◆屋外や水などがかかる場所 ◆不安定な場所 ◆高所など足場の悪い場所
 - ◆直射日光の当たる場所や高温になる場所 ◆有毒ガスの発生する場所
 - ◆天井や熱のこもる場所
- ・機能アースを機能アース端子に接地してください。
- ・出力モニタ端子を使用しない場合は、電波漏洩による電波干渉の原因となることがありますので、付属のモニタキャップを取り付けてください。

使用部品

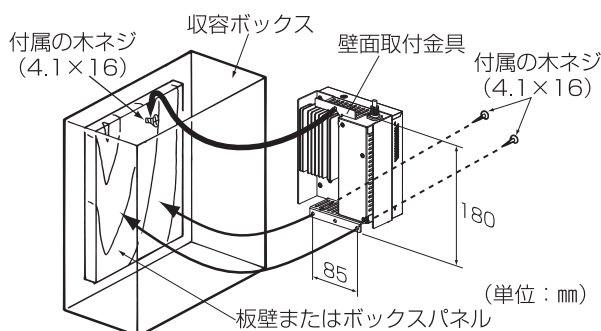
- ・同軸ケーブルは、S-5C-FBまたはS-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- ・同軸ケーブルに使用する接栓は、使用する同軸ケーブルに適したC15形のF形接栓をご使用ください。
- ・機能アース端子には、直径1.6mm以上の軟銅線をご使用ください。

取付方法

- 図のように板壁または放熱を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ2本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは外形寸法700×700×140mm以上のものを使用してください。

〈ご注意〉

- ・天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。また、必ず入出力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。
- ・同一の収納ボックス内にブースターを複数台設置する場合は、50mm以上間隔をあけて取り付けてください。

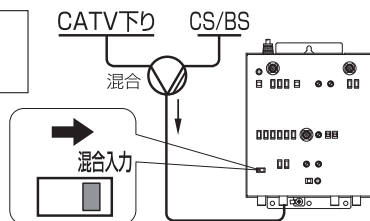


スイッチの操作

① 入力切換スイッチの操作

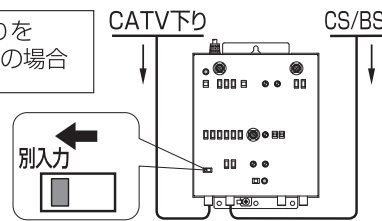
CS/BSとCATV下りの混合入力でご使用の場合

スイッチは右側(混合入力)にセットしてください。



CS/BSとCATV下りを別々の入力でご使用の場合

スイッチは左側(別入力)にセットしてください。



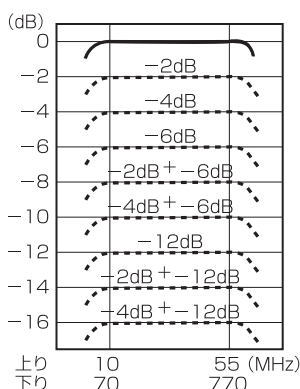
② 入力/出力 ATTSwitchの操作

CATV下り(入力)

70~770MHzがフラットに減衰します。最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。

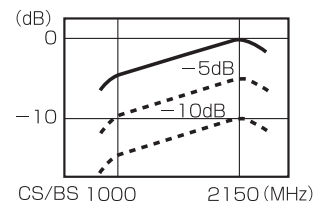
CATV上り(出力)

10~55MHzがフラットに減衰します。最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。



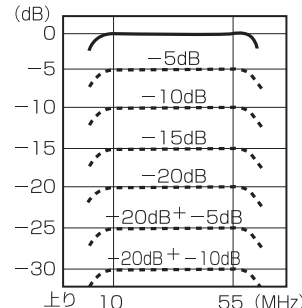
CS/BS(入力)

1000~2150MHzが最大10dBフラットに減衰します。



CATV上り(入力)

10~55MHzがフラットに減衰します。最大30dBまで5dBステップの設定が可能です。



③ ボリュームの操作

後段に接続される機器が過入力にならないよう、利得調整とTILTを調整してください。TILT、利得調整は「反時計回り」いっぱいに戻しきったときにレベルが最大になります。

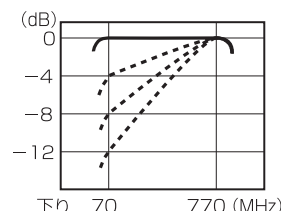
〈注意〉ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。



④ CATV下りTILTスイッチ

CATV下り

770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。最大12dBまで4dBステップの設定が可能です。



施工説明書

ご使用の前にこの施工説明書をよく読み、正しく施工してください。また施工前に製品の外観に異常がないか、付属品が正しく入っているか確認してください。

- ・当社の定める施工説明を逸脱しない方法で据付工事を行い不具合(瑕疵)が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行なった場合、BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、一般財団法人 ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
- ・BLマーク証紙の貼付(又は刻印等)がされている部品については、万一、当社又は設置工事施工者による瑕疵保障責任等が行えない場合、これに代わる措置が同財団から受けられます。
- ・BL保険制度については、同財団のホームページ(<http://www.cbl.or.jp/>)をご覧ください。
なお、BL保険制度に関する質問は、同財団(Tel 03-5211-0680)でもお受け致します。

設置上のご注意

- ・この製品は、屋内用です。ただし、屋外で使用する場合は、下記の「取付方法」をご覧ください。
- ・メンテナンスの容易なところに設置し、次のような場所に設置しないでください。
 - ◆屋外や水などがかかる場所 ◆不安定な場所 ◆高所など足場の悪い場所
 - ◆直射日光の当たる場所や高温になる場所 ◆有毒ガスの発生する場所
 - ◆天井や熱のこもる場所
- ・機能アースを機能アース端子に接地してください。
- ・出力モニタ端子を使用しない場合は、電波漏洩による電波干渉の原因となることがありますので、付属のモニタキャップを取り付けてください。

使用部品

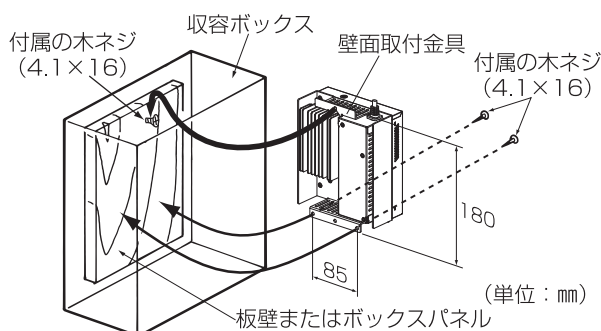
- ・同軸ケーブルは、S-5C-FBまたはS-7C-FB相当以上の性能を有するものをご使用ください。
- ・同軸ケーブルに使用する接栓は、使用する同軸ケーブルに適したC15形のF形接栓をご使用ください。
- ・機能アース端子には、直径1.6mm以上の軟銅線をご使用ください。

取付方法

- 図のように板壁または放熱を施した収容ボックスのパネル板に壁面取付金具を付属の木ネジ1本で取り付け、ブースターを掛けてください。次に残りの木ネジ2本でブースターの下側を固定し、しっかりと取り付けてください。
- 収容ボックスは外形寸法700×700×140mm以上のものを使用してください。

〈ご注意〉

- ・天井や熱のこもる場所への取り付けは避けてください。また、必ず入出力端子が下向きになるようにブースター本体を取り付けてください。他の方向に取り付けると放熱効果が失われ、性能が維持できなくなる場合があります。
- ・同一の収納ボックス内にブースターを複数台設置する場合は、50mm以上間隔をあけて取り付けてください。

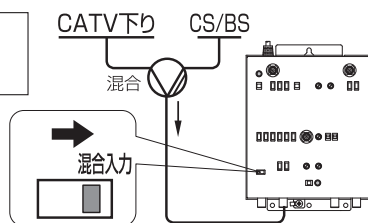


スイッチの操作

① 入力切換スイッチの操作

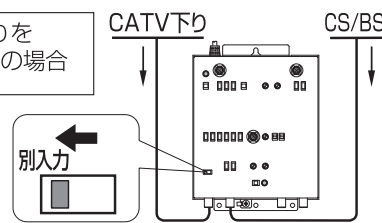
CS/BSとCATV下りの混合入力でご使用の場合

スイッチは右側(混合入力)にセットしてください。



CS/BSとCATV下りを別々の入力でご使用の場合

スイッチは左側(別入力)にセットしてください。



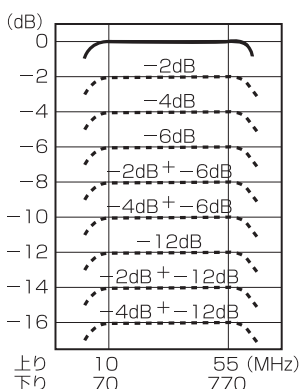
② 入力/出力 ATTSwitchの操作

CATV下り(入力)

70~770MHzがフラットに減衰します。最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。

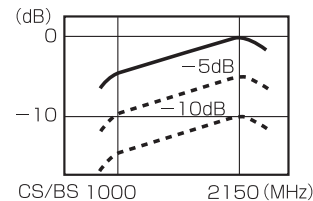
CATV上り(出力)

10~55MHzがフラットに減衰します。最大16dBまで2dBステップで設定が可能です。



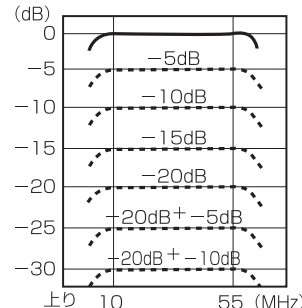
CS/BS(入力)

1000~2150MHzが最大10dBフラットに減衰します。



CATV上り(入力)

10~55MHzがフラットに減衰します。最大30dBまで5dBステップの設定が可能です。



③ ボリュームの操作

後段に接続される機器が過入力にならないよう、利得調整とTILTを調整してください。TILT、利得調整は「反時計回り」いっぱいに回しきったときにレベルが最大になります。

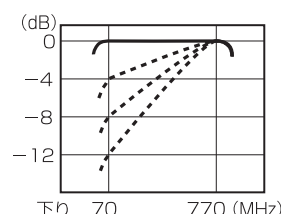
〈注意〉ボリュームは調整用小形ドライバーで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。



④ CATV下りTILTスイッチ

CATV下り

770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。最大12dBまで4dBステップの設定が可能です。



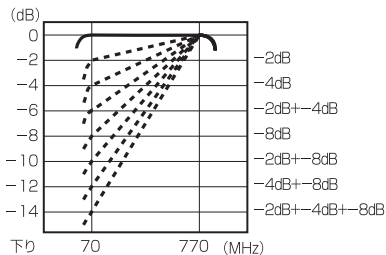
スイッチの操作 (つづき)

⑤ 入力EQスイッチの操作

CATV下りEQ(TILT)

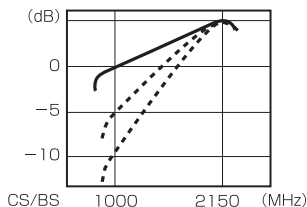
770MHz付近を基準として70MHzの利得が減衰します。

最大14dBまで2dBステップで調整が可能です。



CS/BS入力EQ

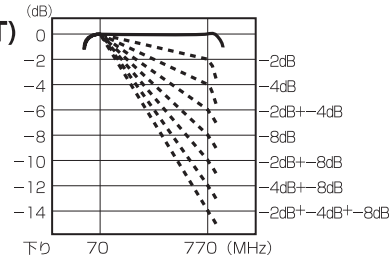
2150MHz付近を基準として1000MHzの利得を5dB/10dB減衰します。



CATV下りEQ(逆TILT)

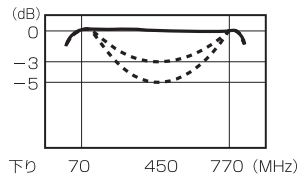
70MHz付近を基準として770MHzの利得が減衰します。

最大14dBまで2dBステップで調整が可能です。



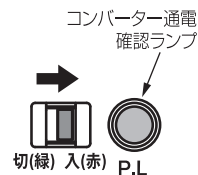
CATV下り入力EQ (450MHz帯域)

70MHz、770MHz付近を基準として450MHzの利得が3dB/5dB減衰します。



⑥ CS/BSアンテナへの給電

- 重畳ラインの機器は通電形を使用し、通電端子に接続してください。
- 重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと故障の原因となりますのでご注意ください。
- 電源の供給はケーブルの接続を確認した後に行ってください。
- CS/BSコンバーター用電源 (DC 15V最大6W) を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。コンバータ通電確認ランプ (P.L) が赤色に点灯します。
- 入力端子側でショートしている場合、ランプが消え、この製品が動作しなくなり故障の原因となります。スイッチを「切」にして、入力端子側のショート箇所を取り除いてください。
- CS/BSコンバーターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCS/BS入力端子のみです。

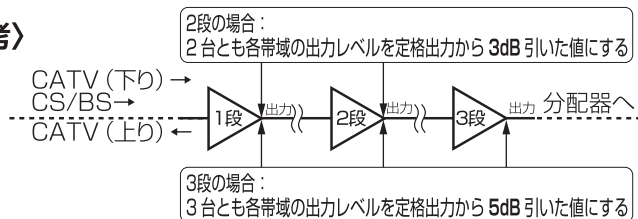


調整方法

(調整に関する詳細については管轄のケーブルテレビ事業者へ確認をお願いします。)

<はじめに> カスケード (多段) 接続時の運用 (参考)

カスケード (多段) 接続する場合は、各ブースターの出力レベルを以下のように設定してください。



<調整の流れ> 手順1

信号レベルの確認

■CATV下り帯域の調整

■手順1：入力信号レベルを確認

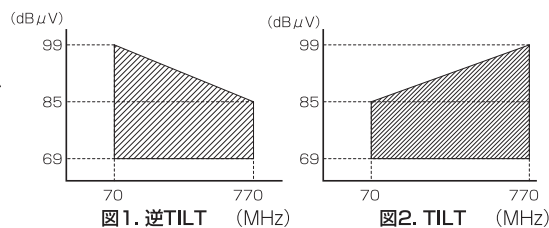
・ヘッドエンド側からの同軸ケーブルをこの製品に接続する前に、スペクトラムアナライザー (電界強度測定器など) またはレベルチェッカーを使って、この製品への入力レベルが図1または図2の範囲内であることを確認してください。

※範囲を超えるレベルを入力すると、故障の原因となる

恐れがありますので必ず範囲内で使用してください。

入力レベルが図の範囲を超える場合は、外付けアッテネーター等で範囲内に調整してください。

※カスケード (多段) 接続の場合や、後段 (端末側) のレベルが、この製品の調整機能で調整しきれない前段 (ヘッドエンド側) のブースター等の利得調整ボリュームおよびTILTスイッチで調整してください。



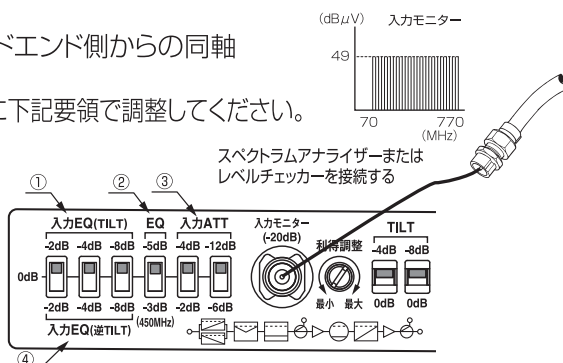
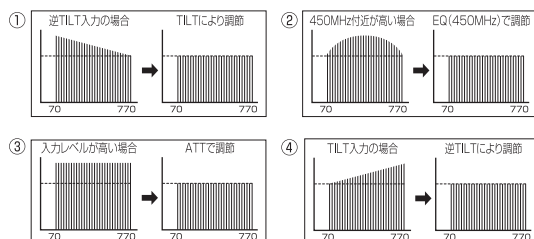
手順2

入力信号レベルの調整

■手順2：入力信号レベルの調整

1. 出力端子を75Ωで終端し、入力端子にヘッドエンド側からの同軸ケーブルを接続します。

2. 入力モニターレベルが49dBμVを超えないよう下記要領で調整してください。



次ページへ
つづく

調整方法 (つづき)

手順3

出力信号レベルの調整

■手順3：出力信号レベルの調整

- 出力レベルが $107\text{dB}\mu\text{V}$ を超えないように利得調整ボリュームとTILTスイッチで調整してください。
なお、出力モニター端子は、出力端子に対して 20dB 低い値を示しますが、出力端子が開放時は正確な値を示しません。
正確な値を測定するために、出力端子には端末側の同軸ケーブルを接続(または 75Ω で終端)してください。
- 接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください。

はじめに

仕様

各部名称

組立・操作・調整

外觀寸法・付属品

■CATV上り帯域の調整

〔事前確認〕

ケーブルテレビ事業者により調整方法が異なりますので、必ず管轄ケーブルテレビ事業者を確認・了解のもとで行なってください。
テスト信号発生器が必要になります。また、テスト信号のレベルは使用するシステムの伝送損失(分岐、分配、同軸ケーブル、壁面端子等)で異なります。テスト信号のレベルおよび周波数については加入エリア管轄ケーブルテレビ事業者を確認をお願いします。

〔入力調整〕

はじめに

出力切換スイッチをOFF側に(LEDが点滅)、上り帯域スイッチを「増幅」位置にスライドしてください。上り出力端子からは上り信号が出力されなくなりますので、幹線やヘッドエンドに影響を与えることなく調整が行えます。

調整方法

壁面端子または、下りの出力モニター端子(注1)へ適正に設定されたテスト信号を入力し、スペクトラムアナライザーまたは、レベルチェッカーを入力モニター端子に接続します。

上り側テスト信号の入力モニターレベルが $55\text{dB}\mu\text{V}$ を超えないよう入力ATTスイッチで調整してください。調整後、上り帯域スイッチで増幅側に設定してください。



〈ご注意〉

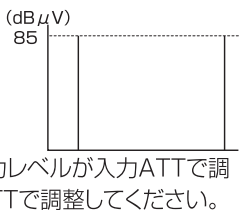
調整が終了したら上り出力切換スイッチを必ず運用側に戻してください。(LEDを消灯させてください)
OFF側(LEDが点滅)では、上り信号は出力されませんのでご注意ください。

〔出力調整〕

出力モニターでレベルが $85\text{dB}\mu\text{V}$ を超えないようにTILT、利得調整、出力ATTを調整してください。
また、流合雑音を軽減するために 30MHz より低い周波数帯域を使用しない場合は、帯域切換スイッチを $30\sim 55\text{MHz}$ 側に切換えてください。

※カスケード(多段)接続の場合、後段(ヘッドエンド側)の上り入力レベルが入力ATTで調整しきれない場合は、前段(端末側)のTILT、利得調整、出力ATTで調整してください。

(注1) 出力モニター端子に入力する信号は 20dB 減衰しますので、上り入力端子に到達するレベルより 20dB 高いレベルを入力してください。



〈調整の流れ〉

手順1

信号レベルの確認

手順2

信号の入力方法の選択

手順3

ケーブルの接続

手順4

測定器の接続

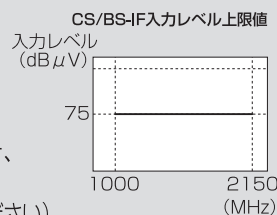
手順5

出力の調整

■CS/BS-IF帯域の調整

■手順1：入力信号レベルを確認

CS/BSアンテナの同軸ケーブルを接続する前に、この製品への入力レベルが右のグラフの数値を超えないように、スペクトラムアナライザー(電界強度測定器など)またはレベルチェッカーを使って、入力EQスイッチ、入力ATTスイッチまたは外付けアッテネーターで調整してください。
(このとき電源をコンバーターへ供給する場合は電流通過形のアッテネーターをご使用ください)



■手順2：信号の入力方法の選択

入力切換スイッチをお客様の使用環境に合わせて選択してください。(ケーブルを接続する前に選択してください)
2段目以降の増幅器の場合：入力切換スイッチを混合入力側にし、下り・CS/BS入力端子に接続してください。

■手順3：ケーブルを接続

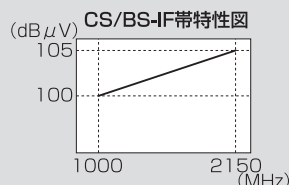
出力端子に端末側の同軸ケーブルを接続(または 75Ω で終端)してください。

■手順4：測定器の接続

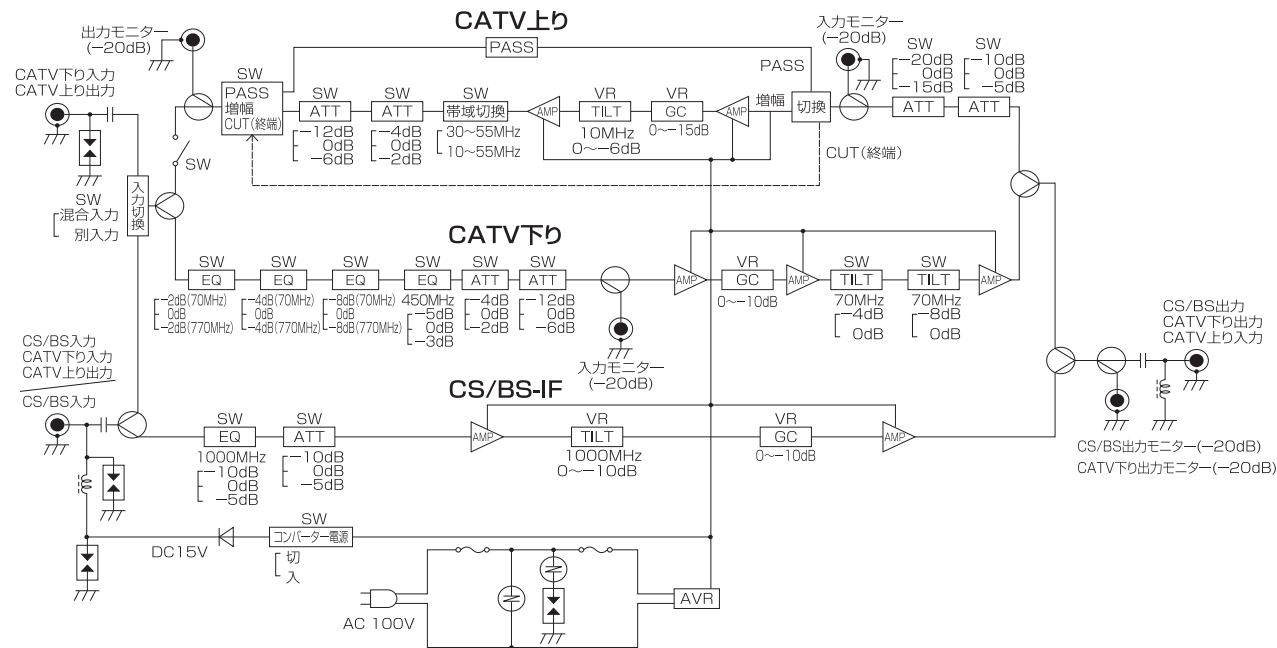
スペクトラムアナライザー(電界強度測定器など)またはレベルチェッカーを出力モニター端子に接続してください。
なお、出力端子に同軸ケーブルが接続(または 75Ω で終端)されていないと出力モニター端子は正確なレベルを出力しません。
※より正確なレベル測定を行なう場合、出力端子に測定器を接続してください。
※測定を行う時、非常に高い出力レベルとなる場合があります。測定器故障の原因となりますので入力レンジに注意してください。

■手順5：出力の調整 (測定後はモニターキャップを必ず取り付けてください。)

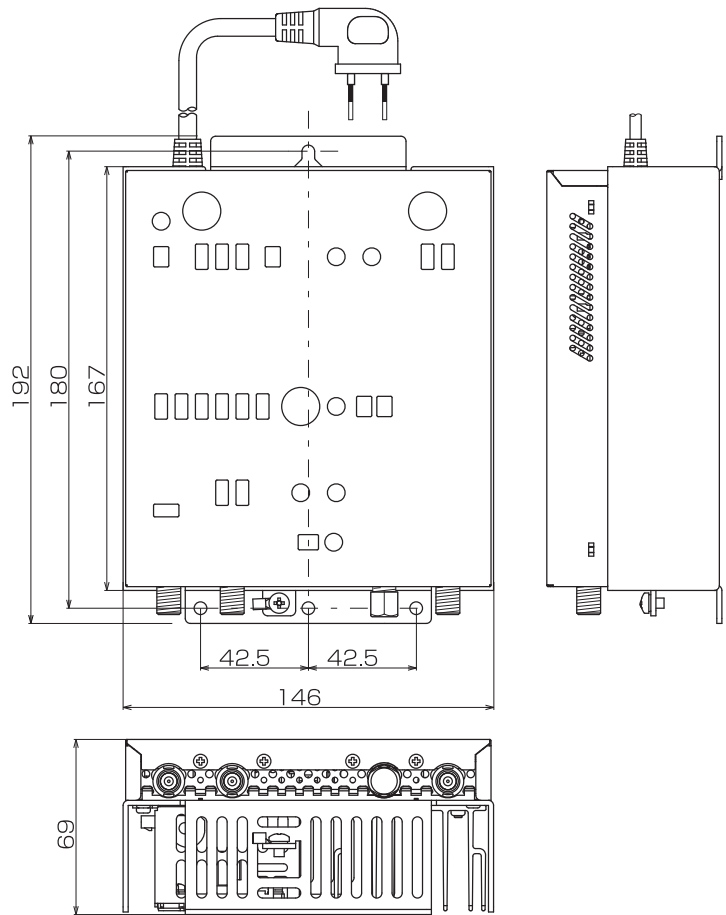
- 最も高い周波数のチャンネルの出力レベルが $105\text{dB}\mu\text{V}$ を超えないように利得調整ボリュームを調整し、同様に低い周波数のチャンネルの出力レベルが $100\text{dB}\mu\text{V}$ になるようにTILTボリューム(必要に応じて入力EQスイッチ)で調整してください。
- 接続後の出力レベルを確認する際は、出力モニター端子を利用してください。
※出力端子に対して 20dB 低い値を示します。



ブロックダイアグラム



外形寸法図



付属品

木ネジ(4.1×16mm) …… 3本

カスタマーセンター 0120-941-542

お昼時間も土・日・祝日もご利用ください！

DXアンテナ株式会社

携帯電話・PHS・一部のIP電話で左記番号がご利用になれない場合 03-4530-8079
〔受付時間 9:30~17:00 夏季・年末年始休暇は除く〕

ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号

(1404)